

メディカルプロダクツ株 来年度 まず配送センター完成へ

新工場の建設を明らかにしていた日本メディカルプロダクツ株

(旭川、山本倫生代表取締役社長)の東川工場建設がやや遅れることになりました。5月1日、山本社長らが役場を訪れ、松岡市郎町長はじめ、町側に新構想を示しました。

新たな計画は、平成

20年度中に約2億円規模の配送センターを完成し、続いて早期に資材倉庫、工場本体を建設するというものです。

同社は、北町11丁目の農地約4畝を取得、整地作業を完了しています。当初は、その後すぐにも工場建設を進め、今年度後半にも新工場完成稼働開始予定でした。

しかし、生産予定の医療手術用キット製品(手術時に使用する不織布マスク、キャップなどのセット)が、薬事法改正で、より高度な滅菌管理などを必要とする医療機器扱いとなり、厚生労働省の新規製造許可まで時間がかかることが分かりました。



松岡町長と懇談した山本社長(中央左)ら

同社は、当面本社工場(旭川市豊岡)の隣接地に工場を増設して増産体制を整え、次いで東川工場の建設に着手することになりました。

新工場は物流配送センターに最新自動化システムを併設します。製品配送センター、資材滅菌センター、資材滅菌センター、倉庫・工場の順に建設する計画です。

山本社長は「現在滅菌機の稼働率が7割に達し、これ以上できない状態。生産能力不足に対応するため、出来るだけ早く東川新工場を建設し、手術用キット製品の生産ラインをすべて移したい」と話し、松岡町長は「町民も期待しています」と早期完成を改めて要請しました。

山本社長は「工場部分だけで200人規模の雇用を考えている。出来るだけ町内から雇用したい」との意向を示しています。

新堀さん、春の褒章・瑞宝単光章を受章

新堀生子さん(62)が平成19年度春の褒章で瑞宝単光章を受章しました。5月9日松岡町長に受章伝達の報告に来庁されました。

東川町特別養護老人ホーム、羽衣園の開園当初から、園の寮母として勤め、以来退職されるまで20年2カ月間にわたって高齢者の入園者



松岡町長に受章報告に訪れた新堀さん(右)

入園しているお年寄りに安心して楽な気持ちで過ごしてもらえるように、と園内行事を積極的に計画立案したり、その人にあつた介護が出来るよう気を配る活動ぶりで後進の指導にも力を尽くされました。

平成12年には楽な姿勢で洗面できるように、と各居室の洗面台を改修するなど、園内生活環境の改善などに貢献してきました。

寄付をいただきました

「町の訪問看護用車の買い替えの一助に」と5月3日、病氣療養中のごころ、旭川市内の病院で亡くなった西7号北11、山田敏子さん(享年75歳)の香典返しとして、夫の前町長、孝夫さん(77)さんが同7日、旭川市内に

在住する長男通孝さん(47)とともに役場を訪れ「町民生費に」と現金を寄付しました。

町立診療所の訪問看護サービスを受けていた敏子さんが、昨年11月、訪問看護用車が廃車となったことを知り、生前から気にかけていたとのこと。松岡町長に直接現金を手渡し「最後は

充実した在宅介護でした」と山田さんは故敏子夫人の生前を偲んでいました。町では、6月に更新する訪問看護用公用車1台の購入費用の一部にあてる予定です。



松岡町長に寄付を手渡した山田孝夫(右)、通孝さん